

明治時代、日本の絵画は急激な社会の変化の中で転換期をむかえます。西洋の表現も取り入れられ、新しい「日本画」を求めた模索が始まりました。この時代に活躍した本県出身の日本画家として、伝統的な狩野派の流れを汲む山水画で力を発揮した山内多門がまず挙げられます。また、同時代に秀麗な美人画で認められていたのが益田玉城です。

一方、本県出身の洋画家では、太い輪郭線と鮮やかな色彩で独自の画風を追究した塩月桃甫が、大正5年に文展（文部省美術展覧会）に入選しています。また、力強い筆づかいで生命力あふれる女性像を描いた山田新一などが中央画壇で活躍しました。

今回は、宮崎県を代表するこれらの作家の作品を紹介するとともに、昨年度新収蔵となった山内多門の作品を紹介するコーナー展示も行います。

本県出身の作家やゆかりの作家による作品の魅力をお楽しみください。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	塩月 桃甫	1886～1954	椿	1946-54(昭和21-29)	39.5×27.3	素描
2	塩月 桃甫	1886～1954	裸婦	1946-54(昭和21-29)	39.8×27.9	素描
3	塩月 桃甫	1886～1954	桃	1948(昭和23)	37.7×45.6	油彩
4	塩月 桃甫	1886～1954	裸婦	1953(昭和28)	72.8×60.4	油彩
5	山田 新一	1899～1991	花	不明	45.5×38.2	油彩
6	山田 新一	1899～1991	卓に凭るリュウシャ	1927(昭和2)	89.2×90.0	油彩
7	鱸 利彦	1894～1993	開拓農地	1980(昭和55)	72.8×91.0	油彩
8	坂本 正直	1914～2011	ふるさとの山 韓国岳の絶壁	1983(昭和58)	116.7×91.0	油彩
9	小野 彦三郎	1912～1971	瀬戸内	不明	72.7×60.6	油彩
10	山内 多門	1878～1932	西渡晩夏	1922	各191.0×376.0	水墨
11	山内 多門	1878～1932	雨三題	1918	各229.5×101.5	日本画
12	山内 多門	1878～1932	虹	1918頃	139.6×50.4	日本画
13	益田 玉城	1881～1955	山宿の春	不明	124.1×41.5	日本画
14	益田 玉城	1881～1955	題不明	不明	128.8×42.0	日本画
15	佐藤 竹臯	1819～1882	蓮の華	不明	139.5×69.5	水墨
16	山本 泰業	1888頃～1947	題不明	不明	131.4×41.9	日本画